

各都道府県血液センターにおける主な取り組み

①若年層を対象とした対策

No.	具体的対策(項目名)	
1	はがき・Eメールによる献血依頼	18～29歳の400ml献血可能者
2	血液センター見学会、研修会、講演会、セミナーの開催	学生(小・中・高・短大・大学)や保護者等
3	新成人への献血パンフレット配布	20歳(新成人)を迎える方
5	Jリーグ(J2)ザスパ草津の献血推進ポスター作成と献血応援スペシャルマッチの開催	同クラブサポーターに留まらず、県内若年層全体をターゲットとする。
6	献血教室及び宿泊研修の開催	小・中・高校、各種学校、大学
7	出前授業	高校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動
2	事業所・団体等の研修会(説明会)の実施	献血協力団体
3	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力ができなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。
4	血小板成分献血協力団体の拡大	血液センター及びルーム周辺事業所
5	男性職員が大半を占める事業所は年3回の献血を実施する。	男性の多い事業所
6	緊急要請可能な企業・団体の確保	ショッピングセンター及び官公庁

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	
1	情報誌の作製及び配布	複数回献血クラブ会員及び一般献血者
2	電話・はがき・メールによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者、複数回献血クラブ会員
3	複数回献血クラブ会員募集はがきの送付	献血適格者
4	初回献血者再来促進	初回献血者
5	ほっとキャンペーン	一定期間内の献血ルームでの献血者約90,000名
6	献血バス会場献血者の献血ルームへの誘導	年1回実施の献血バス会場の献血者

④400ml献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	
1	はがき・メール・電話による献血依頼	400ml献血可能な献血者
2	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者
3	渉外時での400ml献血の推進	企業・団体の献血担当者
4	病院医師の400ml推奨チラシの製作、配布	前回200ml献血者
5	大企業・官公庁での通勤時の呼びかけ	会社員、職員
6	所内イントラによる200ml受入れの抑制	主に献血ルーム

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じて様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	
1	駅前ビジョンを利用したPR(CM)	駅前の通行者を対象に献血ルームのPR実施
2	平日の成分献血者確保強化	成分献血者及び全血献血者
3	翌日の献血実施予定時間・場所を夕方時間帯にテレビ放送する。	県内全域
4	新聞・チラシ折込(直前アピール)	市町400ml献血の推進
5	定期的成分献血者確保対策(ポイントキャンペーン摘要)	次回まで1ヶ月以内の成分献血者
6	「1,000人献血」キャンペーン	一般及び事業所